新潟県燕市・社団法人つばめいと ＆ 早稲田大学
地域連携ワークショップ 2021

地域連携ワークショップとは

まちづくり、地域ブランド、移住定住、観光・・・・自治体が抱える課題の解決策を、学生チームが提案する実践型のワークショップです。学部・学年を超えて集まった学生同士が議論しながら仮説を立て、自治体関係者や住民の方々へのヒアリングなどを通して提案につなげます。地域の魅力を知り、課題を深く考え、仲間と協働することは成長の機会になります。

おススメのポイント！

- 現地調査の実施を含む対面・オンライン各型式の**ハイブリッド**で進める課題解決プログラムです
- 日本屈指のものづくり産業や企業のいまを知ることはもちろん、自分たちわかものの動向を考えるきっかけにもなります
- 市長をはじめ地域住民の方々に、直接ヒアリングする貴重な機会があります！

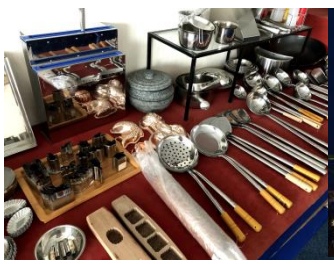
テーマ

燕市出身者が地元との関係を深めるために
「地域ができること」、「わかものができること」を考えよう

日本屈指の金属加工品の産地として有名な燕市。その歴史は古く、江戸時代よりまちをあげて金属に関わる製品をつくり続けています。現在、スプーンやフォークなどの金属洋食器の国内シェアは 90%を超え、ノーベル賞の晩餐会や APEC で各国首脳へのお土産として燕市製品が採用されるなど、そのクォリティの高さは世界的な評価を得ています。市がもつ高度で多様な金属加工技術は伝統の継承にとどまらず新製品開発にも着手し、革新を進めています。このような全国トップレベルの「ものづくり」産業だけではなく自然や歴史が調和する燕市であっても、若年層の人口流出超過は深刻な課題です。地域若年層に対するアンケートでは「（燕市に）住み続けたいと強く思う」と回答する割合は 2 割にも満たない結果となりました。

どうしたら わかものが地元を知り愛着を持ち続けられるのか、進学就職でいったん市外を出たのち再び燕市に戻りたくなるのか。日本各地に横たわるこの普遍的な課題に対して、市では若年時から地域との関係性をより深める機会の創出が必須と考えています。本プログラムでは、燕市を地元とした東京近郊在住の学生が燕市により一層の愛着をもつことを目指し、地域との関係を深めるための効果的な企画を同世代ならではの視点で考え、提案していただきます。

燕市の魅力



燕市は新潟県の中心に位置し、上越新幹線の「燕三条駅」は東京から約 2 時間で到着します。
「金属洋食器の街」として有名ですが、その他にも、日本さくら名所 100 選に選ばれる「大河津分水桜並木」は、約 10km にわたり植えられたソメイヨシノが堤防沿いに咲き誇ります。また、江戸時代末期の禅僧であり、詩人・歌人・書家でもあった良寛が晩年を過ごし、その芸術性が円熟期を迎えた地でもあります。車で 30 分も走れば海も山も温泉もあり、産業から生まれた「背脂ラーメン」などつばめっこソウルフードめぐりなど休日の過ごし方も様々です。2 月は新潟県全域で雪が多く降る時期ですが、燕市は比較的雪の少ない地域であり、程よく雪のある生活、四季を楽しめます。

募集概要

募集期間	2021 年 12 月 6 日（月）～12 月 20 日（月）17：00 [期間厳守]
募集対象	早稲田大学に所属する正規学部生・大学院生（修士課程）（学部、専攻、学年問わず）
活動期間	2022 年 1 月 20 日（木）～2022 年 3 月 11 日（金）
応募条件	**全ての公式日程への参加が可能なこと**
募集人数	5 名程度
応募方法	以下の手順もしくは右の QR コードのリンク先から申請してください。 ① MyWASEDA にログイン。 ② 申請フォーム一覧から「地域連携ワークショップ 2021 春編」を検索。 ③「地域連携ワークショップ 2021 春編　応募フォーム」を選んで「申請」をクリック。 ④ 必要事項（志望理由 400 字程度）を入力して申請。
選考方法	書類選考：結果通知は**2021年12月27日（月）17:00までにWasedaメールにて通知**します。 ※面接選考（オンライン）を実施することがあります。その際は書類選考合格者に別途案内します。
注意事項	① 当ワークショップは一般授業とは扱いが異なります。成績評価・単位認定等はありません。 ② フィールドワーク（現地調査）の実施を含む対面・オンラインのハイブリッド形式で実施します。 主な活動地は早稲田キャンパス、燕市内となります。 ③ **新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては対面でのイベント（オリエンテーションやフィールドワーク等）がオンラインでの実施に切り替わる可能性があります。**その場合、「公共の場所では参加しない」「ヘッドセットなどを装着する」など、第三者に実習内容を知られることがないよう措置を講じてください。 ④ 【重要】フィールドワークへの参加にあたっては出発前に PCR 検査（東京都が実施するモニタリング検査）を受検し、結果を提出いただく必要があります。受検方法、スケジュール等は参加者にご案内します ⑤ 参加にかかる費用（フィールドワーク期間中の食費、交通費、宿泊費、オンラインでの活動に必要な端末の購入費、通信費等）は参加者による実費負担です。 ただし、フィールドワークにかかる宿泊費や昼食代は市から提供いただきます。また、現地までの交通費についても後日申請により一部補助があります。 【交通費ご参考（片道）：新幹線、在来線　9,240 円】※あくまで目安です 【宿泊場所：つばめ産学協創スクエア（1 部屋 2～3 人予定）】 ⑥ 早稲田大学の学生補償制度（損害補償・賠償責任補償）に加入いただきますが、新型コロナウイルスは補償の対象外となります。 ⑦ 募集要項に記載されている日程以外にも、自主的にミーティングやグループワークを実施する機会が多く、期間中は当ワークショップの活動が中心となるよう、スケジュール管理はくれぐれも注意してください。 ⑧ 当ワークショップは複数の地域（第 2 希望まで）に応募することができますが、最終的に参加できるのは 1 地域のみです。当地域を第 1 希望として申請し、選考を通過した場合はその時点で第 2 希望の地域のワークショップには参加できなくなります。 ⑨ 【重要】当ワークショップに応募する場合、同時期に実施されるプロフェッショナルズ・ワークショップへの応募はできません。事前に各ワークショップの特色などをご確認の上、応募してください。 ⑩ ワークショップ実施日と重複する集中科目等を欠席した場合、**公欠扱いとはなりません。** ⑪ このプログラムは、グローバルエデュケーションセンター実践型教育プログラム「地域連携実践コース」の対象プログラムです。 ⑫ 選考結果に関する問い合わせにはお答えいたしかねます。あらかじめご了承ください。
問合せ先	教務部教育連携課（rbso@list.waseda.jp） ※問い合わせの際には、件名のほか所属学部／研究科、学年、氏名を必ずメール本文に含めてください。

ワークショップスケジュール

	予　定	日　程	内　容
①	オリエンテーション ＆交流会 @早稲田大学	2022 年 1 月 20 日（木） 14:00～17:00	・参加者・関係者顔合わせ ・自治体担当者からの説明 ・課題および課題設定に至った背景の説明 ・今後のスケジュール確認 ・事前調査課題の説明
②	事前調査期間	1 月 21 日（金）～ 2 月 6 日（日）	・燕市について調査／情報収集を行いテーマに対する仮説を立てる ・現地またはオンラインでのヒアリング先への質問内容を検討 ・ヒアリング希望先の提出　1 月 30 日（日） （1 月 31 日～2 月 6 日：自治体調整期間） ・必要に応じ、大学キャンパスにてグループワーク
③	フィールドワーク @燕市	2 月 8 日（火）～ 2 月 11 日（金・祝） 【3 泊 4 日】	・燕市内にて事前調査報告、フィールドワーク（現地調査、現地企業へのヒアリング・視察等） ・事前調査で検討した先にヒアリング ・仮説に対して実際に現地調査を行い検証
④	市長 懇談・ヒアリング @Zoom	2 月 14 日（月） 16:00～17:00	・市長を囲んでの懇談、ヒアリング
⑤	オンラインヒアリング @Zoom	2 月 14 日（月）～ 2 月 21 日（月）	・事前調査やフィールドワークでの検討結果をふまえ、提案の検証に必要なインタビューを行う ※ヒアリング先のご都合に応じて実施時間は流動的となります（1 日あたり 3～5 件）。 左記の日程はスケジュールを空けておくようにしてください。
⑥	中間報告会準備	2 月 22 日（火）～ 2 月 24 日（木）	・フィールドワークやオンラインヒアリングをふまえた提案作成
⑦	中間報告会 @早稲田大学	2 月 25 日（金） 10:00～12:00	・提案内容の報告 ・自治体担当者（@オンライン）、大学職員が参加予定
⑧	最終報告会準備・ 追加調査期間	2 月 26 日（土）～ 3 月 10 日（木）	・中間報告会でのフィードバック等をふまえた提案のブラッシュアップ ・提案の再検証（必要に応じて追加のヒアリングを実施）
⑨	最終報告会 @早稲田大学	3 月 11 日（金） 18：00～20：00	・市長など自治体関係者や地域住民の方々（@オンライン）に向けて提案を発表（約 2 時間） ※最終報告会終了後、学生と大学職員との振り返り会（1 時間程度）を実施するため、解散時刻は 21：00 頃となります。

※上記以外の日程は、必要に応じて参加学生同士で相談し、自主的にオンラインやコロナ対策をとったうえで対面での会議等のスケジュールを決め、ワークショップを進めていきます**（学生同士の話し合いに大学職員や自治体関係者が参加することもあります）**。

実施の流れ

- オリエンテーション：自治体の方から課題（テーマ）やその背景を聞く
  ↓
- 事前調査：
  個人、チーム単位で地域やテーマについて調査。
  課題に対する仮説を設定し、提案の方向性をまとめる。
  どのような方にヒアリングしたいのか、どのような質問をしたいのかリスト化
  ↓
- 現地調査・ヒアリング：
  自治体関係者、地域住民へのヒアリング（対面＋オンライン）
  ↓
- 最終提案資料作成：
  現地調査やヒアリングなどを踏まえ、仮説を検証し、最終提案資料をまとめる
  ↓
- 最終報告会：自治体関係者、地域住民を前にプレゼンテーション

学生同士で時間を決め、対面での打合せや Zoom 等で議論を進める

過去のワークショップ参加学生の声 ※当地域の参加学生以外のものも含まれます。

ワークショップでの活動を振り返って

●「学生だけじゃ何も変えられない」から**「学生だから変えられる」という経験**ができました。（社会科学部 1 年）

●**インターネットで得られる情報は一部に過ぎず、生の声を聞いて初めてわかる**ことがたくさんあった。（中略）また、自分のアイデアを言語化する難しさを痛感した。（文化構想学部 2 年）

●活動を進めていく中で**自分が得意としていることと苦手としていることもはっきりと判明**しました。1 ヶ月半課題と向き合うことで、今後自分を成長させるための手がかりを得ることができたと感じています。（人間科学部　2 年）

チームメンバーとの関わりを通して

●元々考えていた案がヒアリングなどを通じて崩れても、また新たなものを考えようと前向きになれたり、（中略）**ひとりではなくチームで提案を構築することの素晴らしさや難しさ**を体験できたので、今後に活かしていきたいです。（教育学部 2 年）

●意見を交わさなければ何も始まらないので否が応でも話さなければならない環境で、（中略）**それぞれ全く異なる視点から物事を分析している**ということがよくわかりました。（政治経済学部 2 年）

●あまり自己主張が得意ではなく、自己肯定感も低めだった自分ですが、今回の WS を通して**相手の考えを尊重しながらも自分の意見を主張する大切さ**を学び、自分の得意なこともチームメンバーに教えてもらいました。（人間科学部 3 年）

「地域貢献」「地方創生」に対する考えの変化

●自分が住む地域をよりよくするために、**行政の方々だけでなく、ヒアリングでお伺いした多くの方々がそれぞれ熱い思いをもって様々なことを考えていらっしゃることがとても印象的**でした。今思えば、ワークショップ参加前は「地域貢献」「地方創生」といったキーワードを軽く考えていたと思います。（教育学部 1 年）

●「地域振興」は地元の人が中心に行うものというイメージから、外部の人でもできる、**むしろ外部の人でなければできないこともある**というイメージに変わりました。（政治経済学部 2 年）